

別紙

三菱レイヨン株式会社 大竹事業所
ユーエムジー・エービーエス(株)大竹工場

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱レイヨン株式会社 大竹事業所
ユーエムジー・エービーエス株式会社 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

(3) 業種

三菱レイヨン株式会社 大竹事業所 … 1632 脂肪族系中間物製造業
ユーエムジー・エービーエス株式会社 大竹工場… 1735 プラスチック製造業

(4) 従業員数（平成28年 6月1日現在）

三菱レイヨン株式会社 大竹事業所 … 1735人
ユーエムジー・エービーエス株式会社 大竹工場… 108人

(5) 事業所位置図

別紙（平面図）のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成27（2015）年度を基準年度とし、平成28（2016）年度から平成32（2020）年度までの5年間とする。なお、非エネルギー起源の温室効果ガスについては、平成18（2006）年度を基準年度とする。

3 計画の基本的な方向

安全・環境・品質に関する基本方針（1998年制定）では
「安全・環境は企業存立の必須要件として、すべてに優先して行動する。」
と定めています。

また安全・環境行動指針（1998年制定、2001年一部改訂）を以下のように定めています。

- (1) 法規を遵守し、必要あるときは法規以上の措置をとる。
- (2) すべての事故は防ぎうることをそれぞれの責任として対応をとる。
- (3) 自己責任・自主的管理を主体とした行動をとる。
- (4) 環境に配慮した事業活動に努める。
- (5) 製品のすべてのライフサイクルで、安全への配慮と環境負荷の低減に努める。
- (6) 教育により意識を高め、その成果を職場に活かす。
- (7) 社会とのコミュニケーションを図り、透明性を上げる。
- (8) 科学的、技術的手法を駆使し、継続的段階的に改善する。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成27年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素	674,179	675,504	675,504

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成26年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素		41,367	27,175

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成26年度	直近年度 平成27年度
メタン		141	148
一酸化二窒素		3,139	3,248
HFC PFC SF ₆			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成26年度)	削減目標		目標年度 (平成32年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂	41,367	2	827	40,540
メタン	141	2	3	138
一酸化二窒素	3,139	2	63	3,076
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：基準製品換算生産数量 (t)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成27年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成32年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	676千	1104千	0.612	4.9	940千	1615千	0.582
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算k1)							
目標設定の考え方	エネルギー起源CO₂原単位 …対前年度比1%削減 (原単位量は基準製品換算生産量[t]を採用する)						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料転換 (化石燃料削減)	4 1 7 1 原油換算k1/年	石炭ボイラー バイオマス燃料の導入
2	廃熱回収	6 8 7 原油換算k1/年	重合工程廃熱回収による蒸気原単位改善
3	熱損失低減による 燃料削減	2 2 9 原油換算k1/年	廃液焼却炉の耐火煉瓦更新
4	設備見直しによる 電力削減	1 8 5 原油換算k1/年	オープン構成見直しによる消費電力削減
5	運転条件見直しに よる蒸気削減	3 1 0 原油換算k1/年	紡浴改良による溶剤回収負荷軽減
6	運転条件見直しに よるエネルギー原 単位向上	7 1 原油換算k1/年	糸継ぎによる原単位向上

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	特になし	
2		
3		

○ その他の取組み

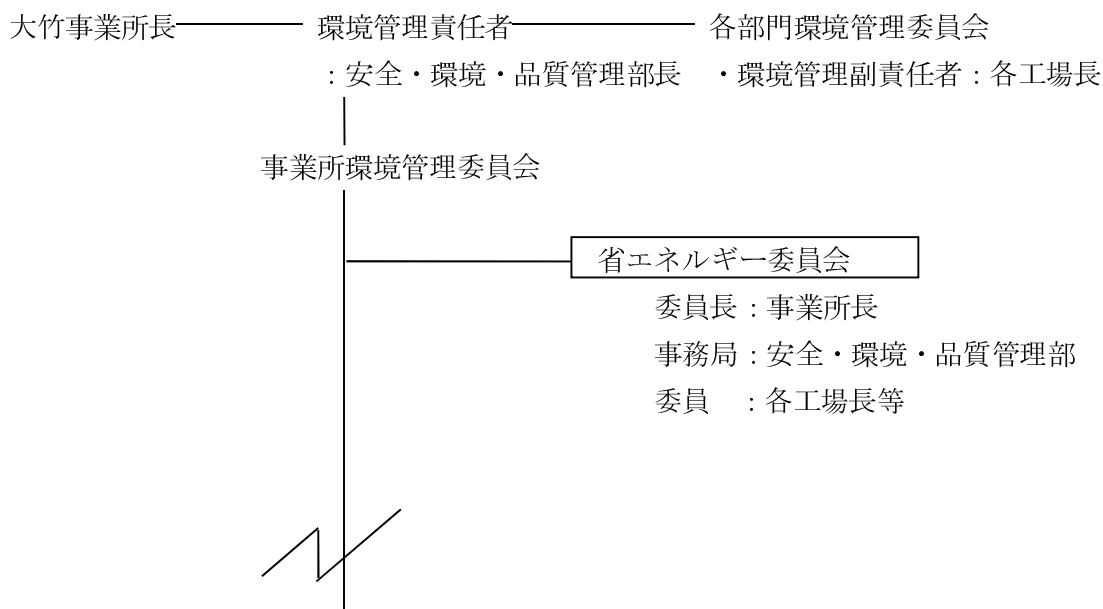
	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物の削減及び再 利用		<ul style="list-style-type: none"> 排水の活性汚泥処理による廃油発生量の低減 焼却灰の再資源化検討
2	省エネCO ₂ 削減		<ul style="list-style-type: none"> エアコン温度管理徹底 (夏28℃以上, 冬20℃以下) 蒸気ロス(トラップ含む)管理の徹底
3	その他		<ul style="list-style-type: none"> 大竹市工場周辺一斉清掃への参加

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

「大竹事業所環境管理委員会」の下に「省エネルギー委員会」を設置して、事業所全体で省エネルギーを推進する。



(2) 実施状況の点検・評価

①省エネルギー目標及び実行計画は全社方針に準じる。

②各工場省エネ委員会開催

- ・省エネ項目の実施状況の確認及び追加・変更項目の洗い出しを実施。
- ・エネルギー消費原単位の向上・悪化の要因を解析し、次年度以降の活動へ役立てる。

③事業所の省エネ委員会開催（年2回 5月、11月）

- ・各工場での省エネ項目の実施状況を確認する。

④事業所環境管理委員会（年2回 12月、6月）を開催。

- ・各環境管理項目の管理状況を確認する。

⑤蒸気トラップの診断(年2回)

- ・トラップ診断機による診断により、蒸気が漏出する異常トラップを発見し、改善することにより蒸気ロス低減を図る。

⑥エネルギー管理士資格の取得推進

⑦事業所の省エネ教育を実施。

- ・各階層への省エネの基礎教育を実施し、省エネへの意識づけを図る。

(3) 計画書等の公表

事業所への備付により閲覧可能とする